

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2年 5月 31日現在

機関番号：
研究種目：奨励研究
研究期間：2019
課題番号：19H00055
研究課題名：「専門職の学習共同体」をめざした特別支援学校における
カリキュラム・マネジメント
研究代表者
藤井 裕士 (FUJII, Yushi)
岡山県立岡山聾学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：540,000 円

研究成果の概要：本研究では、理論研究やアンケート調査、視察調査、アクションリサーチを行い、特別支援学校において実施するカリキュラム・マネジメントの取組によって専門職の学習共同体（教職員を中心とした学校に関係する人々が学び合う学校文化）（以下：学び合う学校文化）が醸成され得ることが明らかになった。また、専門職の学習共同体を醸成することが、学校における専門性の継承・向上につながるということが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、カリキュラム・マネジメントと専門職の学習共同体との関連性について明らかにした初めての研究である。

多くの学校では教職員の大量退職や若手教員の急増により専門性の継承・向上の困難さが課題とされている。とりわけ、特別支援学校における専門性の継承・向上の課題はより強く認識されている。

本研究では、質の高いカリキュラム・マネジメントの取組が学校における専門性継承・向上の課題解決に有効である可能性を明らかにした。各学校において本研究で得られた知見を基にしたカリキュラム・マネジメントを実施することで、多くの学校の専門性の継承・向上につながることを期待できる。

研究分野：特別支援教育

キーワード：カリキュラム・マネジメント 専門職の学習共同体 特別支援学校

1. 研究の目的

対象校においてアクションリサーチを実施する中で対象校を学び合う学校文化としての姿に近づけ、学び合う学校文化を醸成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方のモデルを提案すること。

2. 研究成果

(1) 効果的なカリキュラム・マネジメントの取組を行うことで、「学び合う文化」が醸成され、学校の専門性の継承・向上につながるということが明らかになった。また、「CM の取組」、「学び合う学校文化の醸成」、「専門性の継承・向上」はお互いに良い影響を与え合うことも明らかになった（図 1）。

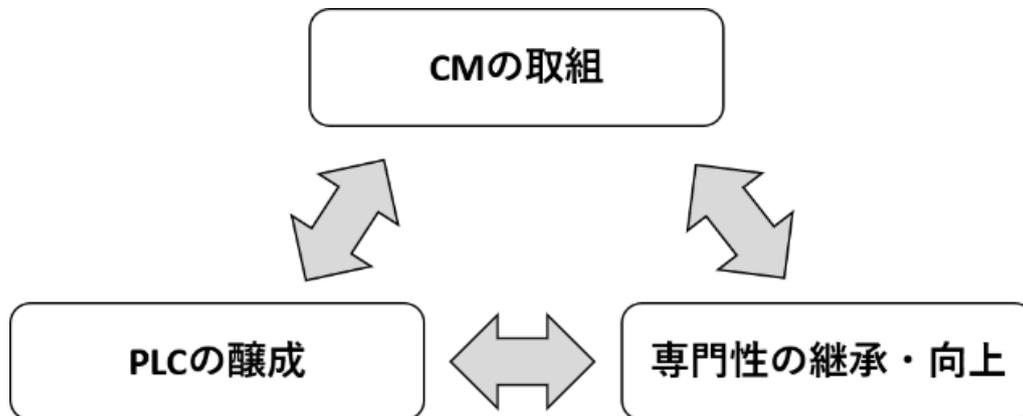


図 1 「カリキュラム・マネジメント（CM）の取組」、「学び合う学校文化（PLC）の醸成」、「専門性の継承・向上」の関係性

(2) 全教職員で実施する校内研究・校内研修でのカリキュラム・マネジメントに関する取組は、「学び合う学校文化の醸成」と「専門性の継承・向上」の両方に直接良い効果を与えることが明らかになった。この取組を、平易な言葉で表現すると授業研究やケース検討ともいえる。教職員間で「カリキュラムを基軸に子どもの学びと成長に焦点をあてて、教育活動を共有し対話しながら振り返ること」が、「学び合う学校文化」の要素の、《学校内外の協働》、《学校内の信頼関係》、《目標の共有》の質を高めた（図 2）。

このカリキュラム・マネジメントの取組で学び合う学校文化を醸成し、専門性の継承・向上に良い効果を与えるポイントとなったのは、次の 4 点であった。

- ・教職員間で行う教育実践の共有・振り返り
- ・教職員間での子どもの学びと成長への焦点化
- ・教職員間の対話：率直に「思い・考え」を伝え合い、聴き合うこと
- ・教職員間の「思い・考え」や取組をつなぐ各リーダーからの働きかけ

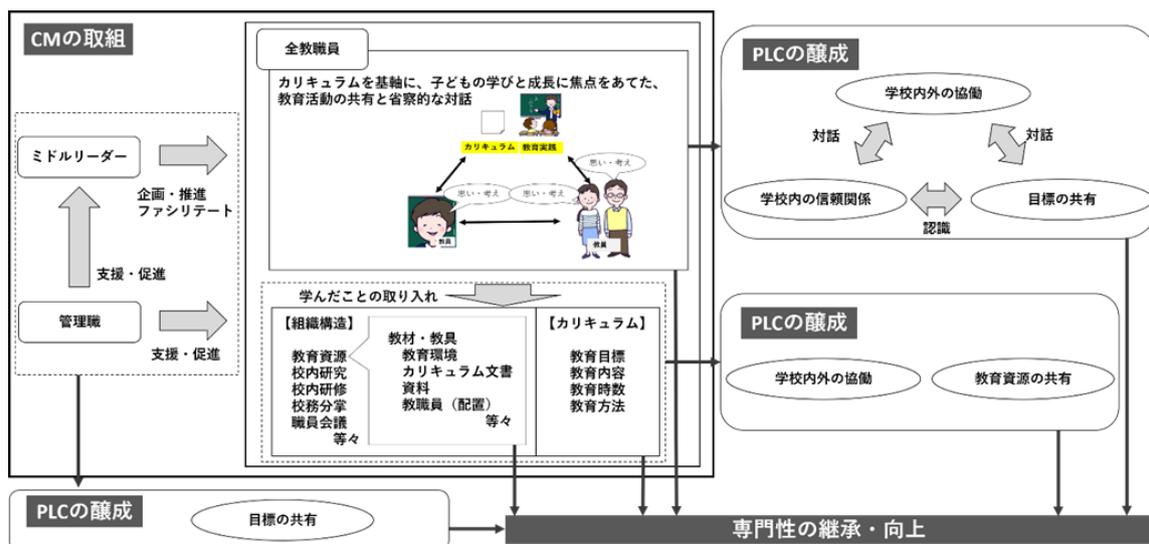


図 2 学校内を中心とした「カリキュラム・マネジメント（CM）の取組」、「学び合う学校文化（PLC）の醸成」、「専門性の継承・向上」の関係性

(3) 本研究で得られた知見を基に、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントをより平易な言葉で解説する冊子を作成した。この冊子については、岡山県教育委員会を通じて、県内の特別支援学校に配布された。

3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

①熊谷愼之輔、藤井裕士、「『専門職の学習共同体』としての学校をめざしたカリキュラム・マネジメントに関する基礎研究」、『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』、査読無、172号、2019、1-9

②藤井裕士、熊谷愼之輔、三沢良、「特別支援学校における『専門職の学習共同体』の醸成ーカリキュラム・マネジメントおよび専門性の継承・向上の実現との関係性に着目してー」、『岡山大学教師教育開発センター紀要』、査読無、10号、2020、107-121

〔学会発表〕(計1件)

①藤井裕士、「『専門職の学習共同体』としての特別支援学校の実現をめざしたカリキュラム・マネジメントによる実践研究」、日本学校改善学会、2020年1月25日

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

4. 研究組織

研究協力者

研究協力者氏名: 熊谷 愼之輔、三沢 良

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。